

研究室紹介

.....社会探究領域.....

フク・カロリン先生

青木 利夫先生

.....人間探究領域.....

杉浦 義典先生

堀江 剛先生

.....自然探究領域.....

小野寺 真一先生

佐藤 明子先生

社会探究領域

フンク・カロリン教授



研究内容

研究内容は観光地理学です。観光地理学とは観光地の発展や変化について取り上げています。外国人旅行者の増加によって観光地がどのように変化するかについて、または、瀬戸内海の島、特に島部における観光の研究が専門です。二七年前日本に来た時、日本の観光旅行の仕方がドイツとあまりにも違うことに気が付きました。それがきっかけで、この研究を始めました。特に違うのは旅行の期間ですね。ヨーロッパでは夏に長期間の観光旅行をします。今は少し短くなってきましたが、私も子供の頃は3週間ほど使って旅行に行っていました。最近では、一回の長い旅行ではなくて、年に二、三回旅行して、それぞれの場所で一、二週間ほど滞在します。一方で、日本は一泊や二泊など比較的短い期間での旅行が特徴的です。

きっかけ

もともと大学を出たら一年間は海外に行きたいと思っていました。当時、地理学をしていた人たちはODAなどで働きたいと言う方もいらっしやいましたが、自分には合わないと思いました。合気道

をしていたこともあって日本に興味がありました。また、日本人の知り合いもいたのでその人を通じて日本に来ました。

始めて日本に来た時は、一年しかいる予定ではなかったのですが、色々と旅行しようと思っていました。瀬戸内海に近い愛媛で滞在していましたが、海での遊び方がドイツとは全く違いましたね。ドイツでは、冬の間でもビーチを散歩したり、暖かければ泳いだりもしますが、日本では海開きからお盆までという決まりがあります。そのような違いも観光に興味を持った一つのきっかけです。

研究の魅力・面白いところ

ひとつはやはり旅行がたくさん出来ることです。また、観光には表と裏があります。表の面は、旅行を楽しむ観光客の皆さんが見ている面です。裏の面は、観光をすることで観光地にかける環境の負担や、観光地で働く人たちの仕事の種類や実態など。その両方をみるのが面白いと思います。

社会探究領域

社会フィールド授業科目群

担当授業：観光論、地域地理学 A・ヨーロッパ環境地誌、ヨーロッパ地誌演習、持続可能地域論、地域の分析、地域調査演習Ⅱ、持続可能な観光発展論、人文地理学 B、総合科学演習

Much
More!!



—趣味

今、西条で大人の方に合気道を教えています。広大の学生とかもいますよ。まあ外国人が教える道場なのでちょっと変わっているかも知れないです。どちらかと言うと日本人がメインですが、留学生の方も来たりします。

合気道の他に少しだけヨットもします。ヨットは研究の一環で海を調査している時に、そこで知り合った方が乗せてくださったことがきっかけでやり始めました。

—学生に一言

非常にありふれた言葉かもしれないですが、やはり海外に行つてほしいです。それが一番ですね。広島大学は地方から来る人も多いし、学校側からの支援もあります。旅行でも良いので是非行つてほしいです。

—お勧めの本

武田尚子「温泉リゾート・スタディーズ」
今自分で読んでいる本で、専門に関する本なのですが、日本の社会学者が、温泉リゾートで働く人たちを題材に「観光地の表と裏」を描いたお話です。観光地の裏を見ることができるといふ点、または地域に密着した研究の例として面白い本ですので、その分野に興味のある人にお勧めです。

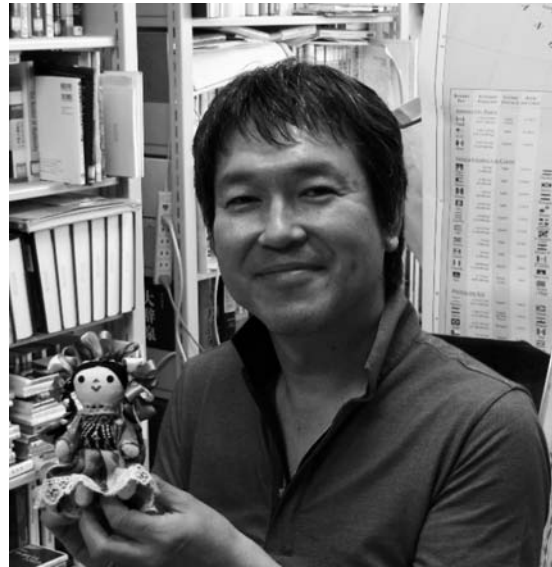
—「これからやってみたいこと」

色々あるのでこれだというものはないですね。出来るのであれば、自転車で色々な場所を走って、旅してみたいです。



社会探究領域

青木 利夫 准教授



社会探究領域 越境文化授業科目群

担当授業: ベーシックスペイン語 I・II、インテンシブスペイン語 IA・IIB、欧米大陸間文化研究、ラテンアメリカ社会文化研究演習、総合科目演習、比較教育社会論

研究内容

これまで、メキシコにおける先住民教育、多文化教育について研究してきました。しかしこの研究にはある程度目処がついてきたので、今はメキシコにおける子どもの歴史の研究を構想中です。子どももの研究というのはある意味一番大事な研究といえると考えています。子どもをどう育てるか、ということはどういう社会をつくるかということでしょうか？子ども史研究を通じて、その当時の人たちがどういう社会をつくろうとしていたのか、そして実際はどうだったのかわかることが見えてきます。子どもを通じて、社会の在り方を見てみようということですね。

また、メキシコの教育について考えていく中で、制度化された学校の中で息苦しく生きている日本の子どもと、学校教育が十分に行き渡っていないと言われているメキシコの子どもとではどちらが幸せともいえないと思ったわけです。メキシコの教育問題をみることで、日本社会を見つめ直すという視点から研究をしています。

きっかけの学生時代

大学3年が終わった後に大学に休学届けを出して十一か月ほどメキシコを旅行して、ついでに南米にも行きました。ほぼノープランで、バックパッカーみたいなものです。持っていた一〇〇万円を全部ドルに替えて、腹の中に巻いて、これが無くなったら日本に帰ろうという旅行でした。

大学では英語とは違うことがやりたかったのですが、スペイン語学科を選びましたが、スペイン語圏の授業を受けるうちに特にメキシコに興味を持ちました。これがメキシコへ行った理由のひとつです。また、当時遊んでばかりだった自分は「今までの勉強は本当に勉強だったのか、大学で何をすれば良いのか」という漠然とした疑問を持っていて、そのころもメキシコへ行く一つのきっかけだったのかもしれない。帰国後、きちんとメキシコのことを勉強しようかな、そのくらい面白い国だなと思いついてメキシコのことを研究し始めたのです。

これからやりたいこと

大学をやめて、スペインで暮らすこと。(笑)今すぐは無理でも、例えば定年後とか。僕はメキシコの専門家だからメキシコでもいいけれど、治安や食べ物のこと

となど様々な面から考えてみるとスペインが一番暮らしやすいのではないかと思えますね。

また、学生まで巻き込んで学生が夢を持てるような社会をつくれなにかなど考えています。漠然としていますが。大学の「学ぶ」主体は君たち学生だからその学ぶことに関して、さまざまな制度でがんじがらめになっていることに対しては抵抗しなければならぬと思います。単位の上限制やのびなどというけれど、自分のやりたいことはどんどんどんどんやっていけばいいし、やらなきゃいけないことはこなしていけばいいと僕は思っています。



メキシコ国立自治大学(UNAM)の中央図書館(青木撮影)

¡Ole!
¡Vamos allá!



——行ってみたい国

ヨーロッパ

まだ行ったことがないスペイン語圏の国

——おすすめの国

ペルー(料理がおいしい)

もちろん、メキシコもスペインもおすすめ。

——先生にとつての楽しみ

食べることと飲むこと

犬(ヨークシャテリア)の散歩

料理

旅行(最近では沖縄にはまっています)

——おすすめの本

上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』

小熊英二『社会を変えるには』

セルバンテス『ドン・キホーテ』

——学生へのメッセージ

まずはアンテナをはること！問題に関心がなければ素通りしてしまうものがたくさんあります。おもしろいと感じたことをちよつと意識しておくだけで、人生を変える一冊の本や、一人の人間に出会えるかもしれませんよ。それから、就職のことを不安がってばかりいるのはもったいない。もっと広い世界を知るために、思い切って西条を飛び出そう。

生きようぜ、しっかりさ。楽しもうぜ、人生をさ。

人間探究領域

杉浦 義典 准教授



人間探究領域

人間行動科学授業科目群

担当授業: 心理学 A B、心と適応、人間行動研究演習、総合科学演習、行動科学外書購読 I、パーソナリティ論、応用行動科学、行動科学実験・同実験法 A B C、適応行動論

研究内容

主に不安障害とその治療法について研究しています。不安の程度にも強いものから弱いものまであります。その不安が自分だけでは解消できない時に長期間のカウンセリングをすることがあるけれど、それ以外の治療法を見つけ出すことをしています。それからもう一つ、サイコパシーの研究もしています。犯罪者だけでなく、社会のルールに反することに対してまずいつて思う人もいれば、何とも思わない人もいます、そういう個人差(サイコパシー)を研究しています。

——どのくらいそれらに関して研究されているのですか。

不安の研究については卒論の時からだからかれこれ20年くらいで、サイコパシーの研究は10年くらいですね。

研究の魅力・面白いところ

研究全体を通じて、ある個人とか世間の人みんなが思っているような常識に風穴を開けられるようなことが見つかるところに面白さを感じますね。

——研究の中で苦労されたことは何ですか。

初めてやる研究には先行研究とかがなく、あんまり他人に聞けなかったことですね。英語の論文とか全部自分で読んで研究していました。始めた頃にはインターネットもなかったから、遠くまで出かけて資料をコピーしたり、それだけで一日使ったりすることもありましたね。

今後の目標

研究つてもものすごい量があるんですね。だから、自分がすごく真面目に働いて多くの原稿を書いたからといって量という点ではしれているわけです。そこで自分にできることは何だろうって考えた時に、いろんな人が思っている常識のどこかに風穴を開けられるようなものを見方とかを少しでも発信していきたいなと思っています。



Much More!!

——『ホンマでっか』に出演なさったということなのですが、感想はいかがですか？

テレビ番組をつくるとこうって視聴者がなかなか見られないから、新鮮ですね。

——出演している他の研究者の方からインスパイアされたことなどはありましたか？

ありますね。テレビでは当然しゃべった量と放送される量では相当減る中で、自分の研究とかを本当に短い時間で伝えているのを見てすごいと思いますね。伝え方とか、すごく刺激になりますね。

——不安やストレスを溜めないようにするコツはありますか？

大事な目標とかがあると嫌なことを乗り越えられたりしますね。大事なことを忘れない、目的を見失わないということが大事かなと思います。

ただ、ストレスを下げるためだけに、人生を使ってしまうともったいないから、そこに必要以上に時間を割きすぎないというのも大事だと思います。

学生のみんだと、結構悩んだりすると余計に自分を見つめたり、内面を見つめたりするけど、あれはよくないんです。本当に辛い時には、生活のなかのささやかな幸せを取り戻すことが大事。それが意外と心の具合が悪くなるのを防いだりするものなんです。

——先生が今まで行った実験の中で一番印象に残っている実験は何ですか？

学生から先生になって初めてやった実験がすごく印象に残っています。実験室じゃなく授業で生徒にスピーチしてもらったんです。生徒は前で話してくれと言われたら緊張するけどそれをどうやって緊張しなくなるかアドバイスをして、きれいに結果が出たときが一番印象に残っていますね。

——広大生に一言お願いします。

何より、勉強しておいたほうがいいと思いますよ。勉強の成果は消耗感がないというか、減らないからね。世の中には

無駄なことも多いけど、勉強して損したとは思っていませんね。

——心理学系を目指す人にも一言お願いします。

心理学を目指す人には、本当に総合科學しておいてほしいです。心理学は百年ぐらいの歴史の浅い学問だから、ほかの学問から栄養を取ってこないと成長しにくいんですね。

あと、心理学の志望動機は重要ではないです。以前、心理学の中でも有名な人たちと学会で心理学を始めたきっかけについて話したことがあったんです。自分の好きな子が心理学に行ったからとか、みんなろくでもないきっかけだったけど、でもそれだいたいと思うんです。なぜなら、心理学は今まで習ったことのない科目で、イメージが抱けないからね。かえって「志」がある人は、一見やる気があるように見えるけど、視野が狭くなっている、あまりよくない。だから、心理学の勉強は流れに任せてやっていったらいいと思います。

人間探究領域

堀江剛教授



人間探究領域 人間文化授業科目群

担当授業: 生命倫理学演習、コミュニケーションの哲学、倫理学 A B、人間文化基礎論、コミュニケーション I A・II B、総合科学演習、生命倫理学、比較倫理学演習、研究倫理、応用倫理学

研究内容

専門は倫理学です。特に、現代の倫理問題を扱う応用倫理学という分野を研究しています。例えば、生命倫理や環境倫理、情報倫理などです。最近では、研究倫理も研究しています。その他、パッケージ科目で「コミュニケーションの哲学」というものをやっています。コミュニケーションの視点から、さまざまな社会学的、哲学的な探求に興味を持って勉強しています。これからの展望は、システム理論の観点から倫理学の理論を展開することですね。

研究をされていて

——研究をされていて楽しい時はどのような時ですか？

本を読んでいる時。また理論的な研究の楽しさというのは、自分で概念を組み立てて、新しい視点が発見できた時ですね。研究の喜びは、「理論的な組み立てをすること」ですね。

——逆に、研究で行き詰まることはありますか？

もちろんいつも行き詰まっています。アイデアが出なかつたり、言葉が出なかつたりすると悶々としますね。まあ、そ

れが楽しいことでもあるんですけど。論文を書いていて、次の文章が出てこない時とかは傍から見ると、何もしてないように見えるでしょうね。まあ自分でもそう思えてきます。しかし、それも行き詰まっているとはいえ楽しいことです。

学生時代

大学生の時は哲学が好きで哲学研究会という同好会に入り、仲間と本を読んでいる時が楽しかったですね。それから、大学院生の時はドイツに7年くらいいたんですよ。その時は、1人で本を読んでいる時間が多かったですけど、それが楽しかったですよね。もちろんそれと同時にいろいろな友達ができて、とても楽しかったです。

——ドイツに行かれた理由は何ですか？

僕は大学を卒業してから、普通に就職して社会人を3年ほどやっていたんですよ。それから、同じ大学の先輩がドイツで勉強して、帰ってきた時にドイツの話聞いて、すごく良いなあと思って思ったんですよ。それで会社を辞めて、いきなりドイツに行きました。会社に勤めていた時は、これで一生勤めていくのも何だか退屈だと思って、もう1回勉強しよう

と決意しましたね。まだ20代後半だったので、「最後のチャンスだ、自分のやりたいことをやろう。」と思って、ドイツに飛び出しました。今思うと、ドイツで学生をしていた時が一番楽しい時代でしたね。



——影響を与えられた人物

社会学者のルーマンですね。現代の社会学者です。

——おすすめの本

哲学や人文科学の本を紹介します。1つはミシェル・フーコーの「言葉と物」。それからもう1つ、先程紹介したルーマンの「社会の社会」。こちらは読めないことはないのですが、非常に難解な本となっています。理論的に奥深い本です。

——総科生に一言

好きなことを一生懸命やってほしいです。皆さん控えているような気がするんですよ。勉強でも遊びでも何でも良いのですが、もっと何かに夢中になってほしいです。せっかくの大学時代、好きなことができる時間がたくさんあるので、何かにハマって、好きなことを徹底的にやりましょう！

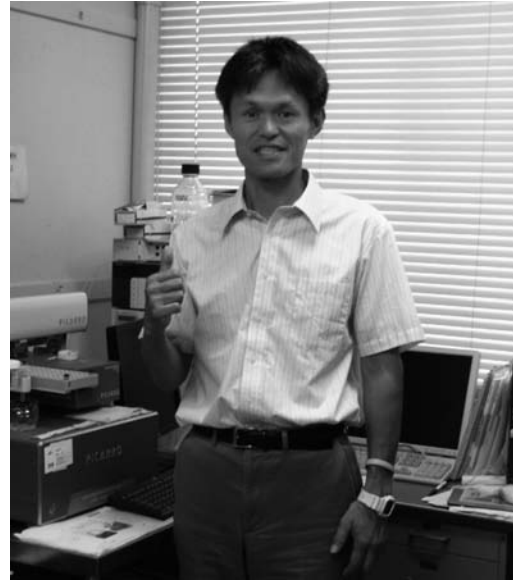
——「対話による哲学」について教えてください。

僕は哲学の研究をしている一方で、本を読まない「対話による哲学」もやっています。例えば五、六人で一つのテーマについて一切本を読まずに自分の考えだけで徹底的に議論します。ある人が何かを言ったら、それを聞いて自分はどう思うか、など言葉の積み重なりで哲

学ができあがります。それだけでも人は哲学書を数ページ読んだ分くらい頭を使います。人の話をしっかりと理解し自分の考えを的確に指摘できるようにする、そういうことを積み重ねるというのも哲学だと考えていますね。

自然探究領域

小野寺真一 教授



自然探究領域

自然環境科学授業科目群.

担当授業: 物質循環と地球環境、表層物質動態論、第四紀環境論、自然環境実験・同実験法ABC、自然環境形成論、地球表層物質輸送論、自然環境演習A、総合科学演習、水・物質循環の科学

研究内容

自然環境の中でも、『水環境』を専門としている小野寺真一です。特に『地下水』に着目しています。研究では、実際の現場で観察・調査することが主で、人間の活動の影響などを計測しています。

具体的には、瀬戸内海のような山地から沿岸にかけてのスケールで、水循環に制御される窒素やリンの循環を明らかにし、人間活動の沿岸を含む水環境への影響を評価してきました。

瀬戸内海は、広島を含む周辺流域における多様な人間活動の影響を直接的にも間接的にも受けています。その影響を明らかにした上で、農業由来で流出した物質の再利用、地下水の積極的利用、そして、農業地域の持続的な発展のための仕組みづくりなどといった、将来に向けてのフィードバックについても考えています。

研究の魅力・面白いところ

自然って身近なものなのに、知らないことが結構あるんですよ。我々が使う井戸水は文明が始まったころから使われてきたのですが、地下水の流れの仕組み

みはわずか五十年前にわかったばかりで、そこでの物質循環の仕組みはまだ意外とわかっていないことが多いです。例えば、我々が注目しているリン循環などがそれです。

未知なるものを追求し体験すること、充実感と爽快感を得られますよね。真面目に観察するとわかったりする、その感覚が本当に面白いです。

また、東京で貿易会社を経営している友人と話したときに、我々のやっていることは大きな目標を立てるとともに、日々の成果(データ)の積み重ねを大切にするという点は同じなんだねと意気投合しました。ですから、たとえば皆さんが卒論を仕上げるまでのプロセスは、どういう社会に行っても使えるし、類似すると思うんです。大きな成果までの道のりは長いですが、その間の苦悩や試行錯誤の後の達成感や成果は皆さんの財産になります。

自然環境の場合、個人ではなかなかできないので、いろんな人の中でより大きな研究をすることが多くなります。そのため、チームワークの重要性をより実感できます。また、いろんな視野も得られますよ。

そして、このようにして得た大きな成果は、結果、人の役に立つこともあるかなと思います。周りの研究者の方からもうごいねと言われることも、やっぱりうれしいことですしね。

今後の目標

“南国”プロジェクトを作ることが目標です。沖縄、フィリピン、インドネシアなどの地域で、現地の人達との共同研究を考えています。沖縄は、雨がふると土砂がたくさん出ます。それをどうにかして除去するという社会システムができれば、下流には出てこないし、サンゴ礁にも問題ないですよ。それをうまくできる仕組みと、我々の物質循環を組み合わせてできたら解決できるのではないかと提案中です。また、まだ先の話ではありますが、そのほかにもブラジルやアフリカでのプロジェクトも考えています。まあ最初は、このへん（沖縄）で、リゾートでも満喫しながらサンゴ礁も見ながら……みたいなね。勿論、なかなか難しいですが(笑)

こういうプロジェクトは一人ではできないのでメンバーが必要ですし、他のチームとは違う部分は強調しなければなら

らないので、プロジェクトの内容によっては三年以上かかったりもします。

much more!!



——趣味は何ですか。

まず、自然に触れられるので、登山や旅行が好きです。五感が刺激されるんですよ。

また、仲間と集って飲むことが好きです。刺激を受けますし、飲むといつもとは違うモードになっていたりもするので公私ともに新たな発見(研究上のことも)なんかもあって非常に面白いですね。

あと、野球観戦も好きです。私は東京出身なのもあってDENAのファンで、年に一回くらいマツダスタジアムに行きますね。

——旅行が趣味…自然科学を選んだのはそれが理由でしょうか？

色んなところに行きたいというのが、地球の神秘を知りたいというのは、もしかしたらオーバーラップしているのかもしれないですね。我々の立場としては、皆さんには自然をどんどん見ていただきたいんですけども、別の学問に携わりたいという発想があるのも大事だと思えます。異文化交流など、自分の知らない人たちの生活や文化を理解する視点も大切ですよ。旅行をすることで、そういった色んな分野の経験ができるんです。こういう面も知ってもらった上で、自然環境を学びたいなと思ってもらえたらいいなと思っています。

——自然の領域に関わる意外な学問はありますか？

インドネシアではムスリムを信仰する人が九割以上暮らしています。彼らは、一日に何度もお祈りをしていて、お祈りをする前に手や顔を洗うんです。インドネシアのジャカルタで地下水の水位を測ると、特にムスリムの寺院に集合してお祈りの日(金曜日)は水位が下がりますよ。そういう人間活動の専門家との共同研究なども重要です。

あとは、水環境問題の解決のためには、経済学的な評価や政策的な検討も

必要ですので、その分野とも現在連携しています。

自然と言っても人間の生活しない場はないので、意外と自然らしくないところも重要であって、異分野の学問もある程度理解する必要がありますし、それも面白いですよ。そういう歩み寄りがないと異分野の人とは組めませんし。こうやって達成していくものは常に新しいものになりますし、更なる達成感が味わえますよね。

——学生に一言

良い経験と良い仲間との出会いをしてほしいです。私の中での良い経験というのは、「学ぶ」ということです。講義だけではなく本や人から学ぶといいです。学んで初めて得られる達成感というもの、経験していただきたいです。そして、良い仲間というのは、親友という枠にとどまらず、信頼できる人間関係をつくってほしいです。性別も世代も国籍も関係なく。色々な世界を知るための後押しになるでしょう。



自然探究領域

佐藤 明子 准教授



自然探究領域

生命科学授業科目群

担当授業: 脳と行動、基礎細胞生物学、生物学実験・同実験法、脳科学、生命科学概論、脳情報制御学、生命科学実験・同実験法D、総合科学演習、生命行動科学演習、生命科学特論B

研究内容

私は細胞生物学という分野の研究をしています。中でもここ30年くらいで発展してきた「小胞輸送」という研究分野があつて、そのメカニズムについて問題提起をし、解明された研究者の方たちが2013年のノーベル賞を受賞しています。私が研究しているのは「小胞輸送」と関連がある分野なのです。

私が今一番研究しているのは、例えば神経細胞だとか上皮細胞だとか、非常に複雑な構造を持った細胞がどうしてそのような構造を形成することができて、維持できるのか、ということをお胞輸送の観点から研究するというものです。そういう研究はまだまだ盛んでなくて、分からない事だらけの分野なんです。実験材料としては、シヨウジョウバエの視細胞を用いています。

私がこの実験系を立ち上げたのは大学院生の時で、今もその系を発展させつつ、メカニズムに迫る研究を続けています。

研究の魅力・面白いところ

やっぱり、新しいことが分かってくると「うわあー!!」って楽しいですよ(笑)

特に今回だと、ちょうど1週間前の火曜日に、新しいことが見えたんです。全然期待していなかった実験で、思いがけない新しい表現型が見えたんです。こういう時ってやっぱりすごく面白いんです。また、今の研究をより深めていくために次の実験の構想を練っているときなんか、楽しいです。それはもう、純粹に研究が楽しいということだと思いますね。

また、人の書いた論文を読むのも好きですね。論文には個性が出ます。コンファレンス等でその論文の著者に実際にお会いして、交流を深めるのも楽しいです。

今後の目標

世の中に役に立つとかいうことは大切なことだとは思いつつも、私自身というのは本当に基礎研究ばかりをしていて、「直結して何かに役立つ」という風にはそれほど思っている訳ではありません。

でも、基礎研究があるからこそ発展した応用研究というものが出てくるんです。基礎が無ければやっぱりしょうがないです。だから「このために研究する」と絶対言わなければならぬとは決して思っていないで、医学には直接関係しなくとも基礎研究を突き進めて研究し

Much
More!!



ていくことは大切だと思いません。私自身は応用の道へ進もうとも思いませんし、これからも現在の研究を続けていこうと思います。

——研究以外の趣味について

私は子供が2人いるので、息抜きをしていると言えるかは分かりませんが、私生活のほうも忙しいですね。子供がいなかったらずっと研究をしていると思います。

——学生へのお勧めの本について

おすすめの小説は特に無いです(笑)小説って読んでいると暗い気持ちになってしまうんですよ。心理学の本なんか読んでみると面白いですね。

——研究者になるといっつらに決めましたか？

私は中学の時には決めていましたね。どの分野に進むかについては高校のときに決めました。通っていた高校の生物の先生が阪大の理学部出身でして、その方からいろいろな話を聞くにつれて、生物学が面白く感じられてそのまま研究者の道を歩み始めました。

——学生時代は何を考えていましたか？

私は、結構勉強が好きなんですよ。ひとりでやっていたらつまらなかったと思いますけど、仲間と一緒に好きな分野の勉強をするのが楽しかったです。英語教科書を読んで、自分なりに解釈をし、仮説を立てて何かをする、ということが大好きで、学部時代はそれを楽しんでいました。

——総合科学部の学生へのメッセージ
広大の学生さんは活発に発言してくれる、という印象がありますね。受動的ではなくて、反応がある、というのが広大に来て二年の私の感想です。だから、授業がとてもしやすいです。教官と学生という風に分けてしまうのではなくて、お互いに交流を図っていききたいですね。学生との付き合いは楽しいです。